

ちはと学級 シブヤ未来科（生活単元学習） 単元指導計画（５５／７０）

単元名：ちはと野菜をめしあがれ！		
ねらい：【栽培（生産）→販売・収入→消費】という、「社会の仕組み」を体験し、労働やお金の意味を知る。 店員として人と関わる学習を通し、社会的な存在として自信を深め、自己肯定感を高める。 「ちはとブランド」の野菜をシブヤ区の方々に知っていただき、都会でも育てられる野菜を紹介する。		
第１次 ２０時間	第２次 ２５時間	第３次 １０時間
P：栽培学習 D：土づくり、種まき、収穫 C：大根も育ち具合はどうか A：ゲストティーチャーによる助言	P：販売学習 D：値段付け、お店の準備等 C：お客さんの声を聞く A：身近なお店の工夫を調査	P：消費活動 D：収益金の有意義な使い方 C：労働意欲 A：大根の育て方をお家の人に伝える。校内の先生方に発表する。（まずは身近なところから始めて、今後伝え方を工夫していく。）
他教科等との関連		
理科：植物の生長 社会：社会の仕組み、スーパーマーケットの工夫、 国語：接客の仕方（話す） 算数：お金の計算（一対一対応、お釣りの計算 等） 図工：お店の看板、ポップづくり、包装紙づくり等 総合：大根のおいしい食べ方を調べる ゲストティーチャー：渋谷区立原宿外苑中学校 駒崎校長先生、鳩森グリーンコミュニティの保護者		

第1学年 シブヤ未来科（生活科） 単元指導計画（40／105）

なつの すてき 見つけよう	あきの すてき 見つけよう	ふゆの すてき 見つけよう
夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、身近な自然の様子や自然を使った遊びの面白さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。	秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してついたり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。	冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、遊びの面白さや自然の不思議さ、身近な自然の様子、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。
9時間	20時間	11時間
P：夏の新宿御苑の自然について話し合い、夏探しの計画を立て、出かける準備をする。 D：新宿御苑に夏探しに行く。 C：夏探しで見付けたことや分かったことをカードにまとめ、夏のすてきなところを友達に伝える。 A：身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったりして遊ぶ。	P：秋の新宿御苑の自然について話し合い、秋探しの計画を立て、出かける準備をする。 D：新宿御苑に秋探しに行く。 C：秋探しで見付けたことをカードにまとめ、秋のすてきなところを友達に伝える。さらに、秋を生かした遊びを考える。 A：秋のおもちゃを作り、遊びを改良したり発展させたりする。	P：冬の新宿御苑の自然について話し合い、冬探しの計画を立て、出かける準備をする。 D：新宿御苑に冬探しに行く。 C：冬探しで見付けた冬のすてきなところをカードにまとめ、さらに自然現象を生かした遊びを考える。 A：自然現象を生かしたおもちゃをつくり遊びを改良したり発展させたりする。
他教科等との関連		
国語科「くじらぐも」 音楽科「みのまわりのおとにみみをすまそう」	国語科「しらせたいな みせたいな」 図工科「あきのおくりものであそぼう」	

第2学年 シブヤ未来科（生活科） 単元指導計画（40／105）

町のすてきたんけんⅠ	公共施設のすてき	町のすてきたんけんⅡ
地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関りを見付け、地域にはさまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活しようとするができるようにする。	公共物や公共施設の利用を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりして、身の回りにはみんなで使う物があることやそれらを支えている人々がいることなどに気付くとともに、それらを大切に、正しく安全に利用しようとするができるようにする。	地域の人々と関わる活動を通して、地域で生活したり、働いたりしている人と自分たちの生活との関わりを見付け、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付くとともに、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとするができるようにする。
10時間	12時間	18時間
P：お気に入りの場所などについて話し合い、探検の計画を立て、出かける準備をする。 D：グループごとに探検に行く。 C：探検で見付けたことや分かったことを発表する。 A：単元全体の振り返りの場を設け、地域の場所や人に親しみをもち。	P：図書館を利用することについて話し合い、出かけるための準備をする。 D：地域の図書館に出かけ、図書館について調べたりインタビューしたりする。 C：見学のまとめをし、他の公共施設についても考える。 A：自分たちの地域には、さまざまな公共施設があり、それらを支えている人がいることに気付く。	P：探検に行きたい場所や話したい人などについて話し合い、探検の計画を立て、出かける準備をする。 D：グループごとに探検に行く。 C：分からなかったことやもっと詳しく知りたいという思いをもち、もう一度探検に行く。 A：調べてまとめたことを地域の人に伝える。
他教科等との関連		
国語科「ともだちをさがそう」 ・大事なことは何かを考えて話す。 ・聞きたきは、大事なことを落とさないようにメモを取る。	国語科「あったらいいな、こんなもの」 ・相手の考えを詳しく聞くために、大事なことは何かを考えて質問する。 ・丁寧な言い方と、普通の言い方のどちらを使うとよいかを考える。	国語科「楽しかったよ、二年生」 ・何について話すのかを考え、その時のことを詳しく書き出す。 ・聞き取りやすい声の大きさや速さで話す。

第3学年 シブヤ未来科（総合的な学習の時間） 単元指導計画（55／70）

単元名：「鳩森をもっと元気にしたい！」地域活性化に向けた取組		
ねらい：自分たちが住んでいる鳩森小学校の周辺の地域に興味をもち、地域を活性化させるためにどのようなことができるのかを主体的に試行錯誤しながら考え提案し、友達や地域の方々と協働して改善策を考えることができるようにする。		
第1次 15時間	第2次 15時間	第3次 25時間
P：自分たちの住む地域は、どんなところなのかを知る。 D：地域巡りなどの校外学習を積極的に行い、情報を集める。 C：調べた情報を整理・分析し、タブレット端末にまとめる。 A：調べた情報を地図にまとめ、地域のマップを作成する。	P：作成した地域のマップを基に、地域を活性化させる取り組みについて考える。 D：敬老会や子育て支援センターの方々へのインタビューを行い、情報を収集する。 C：集めた情報を基に、グループで考えを共有し、学びを深める。 A：敬老会の方々を呼んで、グループごとにまとめた内容を発表し合う。	P：敬老会や子育て支援センターの方々がもっと外出したくなるような「企画」を考えて、提案するという課題を設定する。 D：敬老会や子育て支援センターなど、様々なニーズに合わせた「企画」を作成するために、校外学習を行う。 C：校外学習で体験したことを整理・分析して、「企画」を作成する。 A：まとめた内容を敬老会や子育て支援センターの方々に発表したり、実際に「企画」を行ったりする。
他教科等との関連		
社会科「学校のまわりのようす」 ・社会科の地域巡りとも関連させて、地域についての関心を深めることができるようにする。	国語科「もっと知りたい、友だちのこと」 ・友達と対話する技術を学び、既習事項を応用することで、校外の方々へのインタビューを適切に行うことができるようにする。	

第4学年 シブヤ未来科（総合的な学習の時間） 単元指導計画（55／70）

単元名：みんなが暮らしやすい町、渋谷のバリアフリーについて考えよう		
ねらい：学校や地域の福祉設備の調査を通して、よさや問題点に気づき、誰でも等しく、快適に暮らす権利があることを理解し、目的に応じて手段を選択して情報を収集・整理・分析したり、自分の伝えたいことを明確にして方法を工夫しながらまとめ、表現したりすることができるようにする。		
第1次 15時間	第2次 15時間	第3次 25時間
P：バリアフリーについて、調べるテーマを決める。 D：視覚障がい疑似体験や車いす体験をして、どんな困難があるか知ったり、本やインターネットで情報を収集したりする。 C：調べた情報を整理・分析しタブレット端末でまとめる。 A：調べたことを基に友達と交流し、様々な障がいのある人がいることについて考える。	P：障がい者との交流を行い、障がい者が感じていることを改めて知り、学校周辺のバリアフリーについて調べる場所を決める。 D：学校周辺の福祉設備を調査する。 C：調べた内容を分析し良さや問題点に分けて整理する。 A：調べた場所についてグループ発表する。	P：調べた場所の福祉施設の問題点から自分たちに何ができるか、どのような要望ができるか考える。 D：問題点の解決方法を見つけるために情報を収集する。 C：収集した情報を整理・分析し、考えた改善点をタブレット端末でまとめる。 A：まとめた改善点を施設の方に提案する。
他教科等との関連		
国語科「新聞をつくろう」 ・取材・要約したことを相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する力	国語科「クラスみんなで決めるには」 ・目的を確認し、話し合い、互いの意見に着目して考えをまとめる力	道徳科 思いやりのかたち「親切、思いやり」 ・相手の状況に配慮し、多様な関わり合いをもつことができるようにする。

第5学年 シブヤ未来科（総合的な学習の時間） 単元指導計画（55／70）

単元名：新宿御苑の魅力を発信しよう		
ねらい：身近にある新宿御苑のよさに主体的に関わり、第三者へ発信することを通して、自分たちが生活する地域への愛着や誇りを育む。		
第1次 15時間	第2次 30時間	第3次 10時間
P：新宿御苑が有名な観光地であることを示す資料を基に、課題を設定し、学習や活動の計画を立てる。 D：計画に基づき、現地調査やインタビュー、書籍、インターネットなどにより情報収集をする。 C：集めた情報を学級で共有し、それらの情報を分かりやすく整理・分析する仕方を考えながら検討する。 A：まとめた情報を御苑の方などに発表して感想や助言をもらい、次の課題を考える。	P：新宿御苑の特色やよさを発信する方法を考える。（御苑ミュージアムで動画を流してもらう、お土産のデザインを考えるなど） D：グループに分かれて新宿御苑の調査をしたり、関係者に聞き取りをしたりして、情報収集をする。 C：情報を分かりやすく整理し、分かったことや自分たちの意見・感想を交流する。 A：整理した情報をテーマごとにタブレット端末でまとめ、御苑の方に見てもらって、助言してもらう。	P：よりよい発信ができるよう話し合い、修正、発信の計画を立てる。 A：計画に沿って発信する準備をし、発信をする。 振り返り：自分たちの学習活動を振り返ったり、地域の一員としての視点から考えたことをまとめたりする。
他教科等との関連		
国語科「みんなが過ごしやすい町へ」 ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力	社会科「情報産業とわたしたちの暮らし」 ・情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考える力	

第6学年 シブヤ未来科（総合的な学習の時間） 単元指導計画（55／70）

未来のHACHIプロ		
ねらい：「渋谷らしさ」を考えるとともに、区の基本構想やまちづくりマスタープラン、聞き取り調査などを参考に渋谷区の課題を考えたり、戦後から現在に至るまでの渋谷の移り変わりについて調べたりすることを通して、未来のシブヤがよりよいまちへとなっているためにどのようなことが必要か考え、提言する。		
第1次 15時間	第2次 15時間	第3次 25時間
P：「渋谷らしさ」とは何か考えを出し合い、行政の取り組みや住民の思いについて関心をもつ。 D：区の基本構想やまちづくりマスタープランについて調べたり、千駄ヶ谷駅前での聞き取り調査を行ったりする。 C：集めた情報から、渋谷区の課題について考える。 A：渋谷区の課題をまとめて、区役所の方に聞いてもらう。	P：これまでの渋谷のまちの移り変わりについて関心をもつ。 D：インターネットで渋谷区の課題やそれに対する取り組みについて調べる。 C：渋谷区の課題を整理し、よりよいまちづくりについて考える。 A：東急株式会社の方に来てもらい、まちづくりの視点について助言してもらう。	P：第2次でいただいたアドバイスをもとに、「鳩森小6年1組まちづくりマスタープランコンテスト」を開催することについて意欲をもつ。 D：グループごとに、自分たちが考える「まちづくりマスタープラン」を、これまでの情報を基にデザインする。 C：「まちづくりマスタープランコンテスト」を行う。 A：コンテスト優勝グループが区役所の方へ提言として提出する。
他教科等との関連		
	国語科「みんなで楽しく過ごすために」 ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたり、まとめたりすることができる。	国語科「私たちにできること」 ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。